

令和6年度伊那市立高遠中学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった）自己評価（a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった）

学 校 教 育 目 標	重 点 目 標（中長期的目標）
学則得（学び則ち得る） ○学と得は一体であり，知と行は表裏，学は徳である。自らが主体として学ぶことで全ては得られるのである。 ○実学尊重 知育・徳育・体育の調和を求め，情操のいよいよ高く深く人間存在を求める。いよいよ高きもの，いよいよ遠きものを仰望する実践の姿 “仰之愈高 望之愈遠” 之を仰げば愈々高く 之を望めば愈々遠し	「高遠の子」実践目標 ①挨拶愛語 ②清掃不言 ③花作相見 ④歌声響合
	今 年 度 の 重 点 目 標
	(1) 求めて学び，自ら立つ生徒（主体的学習態度） 志を高く持ち，自らの意志で「ひと・もの・こと」に積極的にかかわる力を育む。 (2) 互いを認め合い，学び合う生徒（協働的集団づくり） あらゆる集団での学びを通して人間関係形成能力を育成しつつ，他者に対する「おもてなしの心」をはじめとする人権感覚を磨き，集団の一員としての自覚を高めることを通して，人格の完成を目指す。

総 合 評 価		
○重点目標に対する生徒アンケートの肯定的評価は，「挨拶愛語」80％，「清掃不言」92％，「花作相見」82％，「歌声響合」85％。保護者アンケート「重点に沿った教育活動をしている」96％，「気持ちのよい挨拶ができる」76％と，全体のほぼ80％以上となっている。重点目標について，おおむねどの生徒にも理解され，意識してそれぞれの活動に取り組むことができていると考える。高遠中が大切にしてきたこれらのことを継続していけるよう，それぞれの意味や意義を生徒と共に確認しながら，日々の活動の充実を図ってきたい。		
成 果 と 課 題	評価	改 善 策 ・ 向 上 策
(1) 生徒アンケートでの肯定的評価は，「学習内容のわからないことを質問したり自分で調べたりして理解するようにしている」75％，「自分で学習の計画を立て実践し見返しをして理解を深めようとしている」65％だった。	B	・学習計画の立案と実践については，個別の指導やサポートを強化していく。例えば，学習計画を立てる段階でのアドバイスやチェックインを教師が定期的に行うことで，生徒が主体的に学習を進めるための自信とスキルを養っていく。 ・生徒が自分の学習進捗を見直し，課題を発見できるような場をどのように提供するか検討する。
	b	
(2) 生徒アンケートでの肯定的評価は，「他者と協力しながら生活や授業の活動に取り組もうとしている」90％，「よりよい学級・学年・学校にしようと学級・学年・学校の活動や行事，生徒会活動に参加している」89％だった。	A	・課題解決型学習などを積極的に取り入れ，生徒が自分たちの力で問題解決に取り組む経験を多くしていく。また，他者の意見を尊重する場の提供をしていく。 ・自己肯定感を高めるために，役割を積極的に与え，目標を達成する喜びや責任感を体験させる活動をしていく。（係活動、委員会活動、部活動を大切に）
	a	

領域	対象	評 価 項 目	評 価 の 観 点
教 育 活 動	教育課程	○基礎学力の向上を図り，どの生徒にも「わかる授業」の実践	○基礎・基本の定着を図り，学習内容の理解ができる授業がなされていたか。
		○「総合的な学習の時間」を充実させるためのカリキュラム編成とその実践	○高遠中学校らしさのある「総合的な学習の時間」としてのカリキュラム編成ができたか，また，その特色を生かした実践となったか。
	学習指導	○生徒が学びたい学習問題や学習課題の設定	○生徒自らがめあてをもち生き生きと取り組む授業づくりができたか。
		○ICT機器を生かした授業づくり	○授業でICT機器を効果的に活用することができたか。また，生徒がICT機器を使う場面を作れたか。
	部活動	○高遠中学校部活動運営方針に則った部活動の充実	○部活動運営方針に則り，「スチューデントファースト」で指導をし，生徒にとって満足感のある部活動になったか。
		○少人数の部活動で生徒を生かす工夫	○部活動の地域移行に向けての準備を行うことができたか。
	生徒指導	○いじめのない安心安全な学校	○生徒が安心して学校生活を送ることができているか。 ○有事の際に迅速にチームで対応できているか。 ○日頃から職員間で情報交換を活発に行っているか。
		○不登校・不応生徒への柔軟な対応と発達障がいへの理解の向上	○不登校生徒，不応生徒の状況把握と未然防止，発達障がいへの理解，早急的確な対応がなされたか。
	学 校 運 営	○災害時の対応や防災訓練の質的向上	○安全指導，避難訓練の実施について，実質的な内容の向上（想定を広げたり，臨機応変に対応する生徒を育成したり）が図られたか。
		○交通安全にかかわる生徒の意識の向上	○交通安全（歩行，自転車の乗り方，バスの乗車マナー）について，生徒の意識は高まったか。
	地域と	○外部講師・地域ボランティアの活用の推進	○外部講師や地域ボランティアと連携し合い，生徒の教育活動が充実したか。

成 果 と 課 題	評価	改 善 策 ・ 向 上 策
○生徒アンケート「授業内容を理解できている」では，肯定的評価が81％、否定的評価が16.5％だった。保護者アンケート「授業がわかりやすい」といっている」では，肯定的評価が65.2％、否定的評価が19.6％、わからないが15.2％だった。	B	・「わかる授業」を行うために，教師が互いの授業を見合い，良い実践を共有し，授業をよりよいものにするため，指導方法を改善していく。校内研修を充実させる。 ・定期的な理解度チェック（単元テストや小テスト）を取り入れ，理解度を把握し，フィードバックを行うことでつまづきを明確にして支援を行う。
	b	
○生徒アンケート「高遠中学校らしさのある総合的な学習の時間の題材で学ぶことができる」では，肯定的評価が90％、保護者アンケート「地域に根差した特色ある教育活動を行っている」では，肯定的評価が，91.3％だった。	A	・地域の歴史や文化，自然環境を題材にした学習活動を増やし，地域と学校のつながりをさらに強化していく。例えば，高遠の地域資源を活用したフィールドワークや地域の人々との交流，地元企業や団体と連携したプロジェクトなどを通じて，生徒が自分たちの地域について深く学び，誇りを持つ機会をもてるような活動を探っていく。
	b	
○生徒アンケート「授業内容を理解できている」では，肯定的評価が78％，「学習内容の分からないことを質問したり自分で調べたりして理解するようにしている」では，肯定的評価が75％であった。	B	・今年度の研究テーマにある個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を視点に，生徒が生き生きと学ぶための授業づくりの研修を充実させていく。
	b	
○生徒アンケート「自分の考えを他者に伝えるように発信することを心掛けている」では，肯定的評価が82％，「学習内容の分からないことを質問したり自分で調べたりして理解するようにしている」では，肯定的評価が75％であった。	B	・多くの教科が授業の中でタブレットを使用している。更に効果的に活用するために，教師のICTスキルを向上させるため，教師間の情報共有や協力を促進していく。
	b	
○生徒アンケート「粘り強く部活動に取り組む仲間と力を合わせて目標に向けて努力している」では，肯定的評価が85％、保護者アンケート「子どもは部活動にやりがいをもって取り組んでいる」では，肯定的評価が91.2％だった。	A	・「スチューデントファースト」の理念から一人ひとりの成長や個性を尊重するとともに，生徒にフィードバックを与え，成長を実感できるようにしていく。
	a	
○少人数の部活動においては，大会に出場するために，地域移行に向けて地域クラブと連携したり，他校と合同チームを編成したりした。他校との連携に課題が残った。	A	・他校との連携では，両校で連絡・相談を密にして，生徒や保護者が安心して活動できるような体制をつくっていく。
	b	
○生徒アンケート「差別やいじめをしない・許さないという態度ができている」では，肯定的評価が98％。保護者アンケート「教職員はいじめや暴力の未然防止に努め適切に指導している」では，肯定的評価が71.7％だった。	B	・生徒の高い意識を活かし，さらに積極的に行動に反映させるとともに，月に1度の職員会議や月に2～3回行う生徒理解の係会において職員間の情報交換を活発にし，迅速かつ連携して対応できる体制をつくっていく。 ・保護者との継続的な協力を活かし，いじめのない安心安全な学校の実現につなげていく。
	b	
○登校できない生徒については，医療機関や中間教室，SC，SSW等と連携しながら，支援会議や個別面談を実施し，家庭と共に個に応じた対応している。スライドの中に，生徒理解や特別支援の係会を設けて，情報共有を行っている。	B	・登校できない生徒への支援は，学校内外のリソースを効果的に活用することが鍵となるため，各関係者が連携し，情報を共有しながら，生徒一人ひとりに最適な支援を提供することを大切にしていく。
	b	
○年3回の避難訓練では，自教室から避難経路の確認，水害時の垂直避難，事前アナウンスなしの訓練と目的を明確にした訓練ができた。	A	・生徒や教職員が冷静かつ迅速に行動できるようにするために，より実践的で効果的な訓練となるように，実施時期，内容，振り返りを工夫していく。
	a	
○道路の歩行については，分会長や生徒指導主事から全校に向けた注意喚起を行った。	A	・生徒自らが登下校時のマナーについて振り返ったり，考えたりする機会を設けていく。また，地域の方からの情報提供を呼びかけていく。
	b	
○PTA 講演会や性教育講演会などの様々な講演会，読み聞かせや部活指導，放課後学習等に多くの外部講師，地域ボランティアの方々に参加していただいた。	A	・今後も地域のボランティアを募集したり，依頼をしたりして学校とのつながりをつくっていく。 ・講演会や活動を通して学んだことの記録やフィードバックを生徒の目線で検討して，生徒の力になるような手だてを講じていく。
	a	

	の 連 携	○ P T A 活動の充実と開かれた学校づくり	○ P T A 活動、授業参観日、文化祭等への参加者が増えたか。 ○ 学校の様子を家庭、地域に積極的に発信したか。	○ 観桜期ボランティア、親子ふれあい講座、P T A 講演会、P T A 作業などの活動を実施し、多くの保護者が参加した。 ○ 保護者アンケート「学校は、学校だよりや学年通信、懇談会等で教育活動の様子を知らせている」では、肯定的評価が 1 0 0 % だった。	A	・より多くの保護者や地域の人々が積極的に学校活動に関与し、学校全体の「開かれた学校づくり」をさらに進めるため、参加者層の拡大、家庭・地域への発信強化、イベントの魅力向上、ボランティア活動の多様化、そして教育活動の可視化を進めていく。
					a	
	研 修	○ 教師の資質向上を図るための職員研修の充実と授業公開	○ 積極的に研修会に参加したり、授業公開をしたりすることで、資質向上を図ることができたか。	○ 総合教育センター研修や教科教育研修、他校での授業公開に参加を促し、可能な範囲で研修を行うことができた。 ○ 夏季休業の始めと最後に、専門の講師を依頼して、受講することができた。 ○ 授業公開を促すことで、一人ひとりがよりよい授業づくりをするための自主研修ができた。	B	・外部での研修への参加の啓蒙と校内での自主研修の充実を図っていく。特に、校内の自主研修については、職員のニーズを大切にしながら、職員自らが計画や推進をしていく。
					b	
		○ I C T にかかわる継続的な研修の推進	○ I C T にかかわる研修を授業に活かすことができたか。 ○ 職員・生徒ともに ICT 活用の工夫と向上が見られたか。	○ 美術と技術家庭科の校内授業研究会を通して、I C T 活用の工夫と向上が見られる授業づくりを学び合うことができた。 ○ 職員会議の始めに研修の時間を位置づけることができなかった。	A	・授業での I C T 活用は、確実に向上している。さらに生徒が有効に活用するために職員の理解やスキルの向上に努めていく。 ・職員会議の日の研修の位置づけや年間計画について検討していく。
					b	